

BBS GROUP NEWS

VOL.69 JULY 2025

お客様とBBSをつなぐコミュニケーションツール



CONTENTS

- Page 2 — 対談 トラストッド・パートナーとして
企業の健全性維持と成長に貢献し続ける
EY新日本有限責任監査法人 株式会社ビジネスブレイン太田昭和
理事長 理事長 × 代表取締役社長
松村 洋季 小宮 一浩
- Page 4 — 事例紹介 明治電機工業株式会社 様
- Page 6 — サービス紹介
・次世代システム基盤 ACT-Horizon
・人事給与総合サービス Bulas
- Back cover — 第8回 BBS 絵画コンクール 受賞作品発表！

トラステッド・ 企業の健全性維持と

EY 新日本有限責任監査法人
理事長

松村 洋季



松村 洋季 1992年、太田昭和監査法人(現EY新日本有限責任監査法人)入所。2001年～2004年にEY London駐在。2016年よりEY新日本有限責任監査法人 経営専務理事を務め、人材開発本部長、金融事業部長などを歴任。2025年7月、同法人 理事長に就任。

企業経営を取り巻く環境は、各種制度の制定・改正やテクノロジーの進化などで大きく変化しています。こうしたなか、監査法人は、どのような役割を担い、クライアント企業の成長に貢献していくのか。2025年7月1日にEY新日本有限責任監査法人の理事長に就任された松村洋季氏をお招きし、当社代表取締役社長の小宮がお話を伺いました。

ステークホルダーに価値あるインサイトを提供し、 トラステッド・パートナーとして、 成長を支援していく組織をめざす

小宮 理事長へのご就任、おめでとうございます。最初に新理事長としての抱負や御法人のめざす姿についてお話をお聞かせください。

松村 私たちは今、「トラステッド・パートナー」というスローガンを掲げています。ステークホルダーとの深い対話を通じて経営課題を把握し、私たちの持つセクターやグローバルのインサイトを提供することで成長を支え、何かあればいつでも相談していただける——そんな組織をめざしています。

小宮 人材開発部門のトップも務めていらっしゃいましたので、人の育成や組織づくりに関しては、熱い思いをお持ちだと思います。

松村 トラステッド・パートナーであり続けるためには、個々人が監査や会計、ITといった専門性を伸ばすのはもちろん、個性を幅広い領域で発揮できる環境づくりが大切です。多様な人を育てて、活躍してもらうために、“出る杭を伸ばす組織”にすることが私の役割だと考えています。

国際基準対応を含む豊富な知見を活かして 新リース会計基準への対応を支援

小宮 2027年4月から新リース会計基準の強制適用が開始されることとなり、多くの企業が対応を進めています。御法人にもさまざまな相談が寄せられていると思いますが、その内容をお聞かせいただくことはできますか。

松村 ご相談で多いのは、新基準を踏まえた取引の識別と、その内容を会計処理にどのように落とし込むかという点です。また、今回の改正は経営指標の設定に影響を与える可能性があるため、経営層とのコミュニケーションでは事業のあり方に話が及ぶこともあります。

小宮 内容が複雑で、業種によって影響度が異なるため、ハイレベルなアドバイスが求められているのではないのでしょうか。

松村 新リース会計基準の導入は単なる会計上の対応にとどまらず、複数の部署やグループ会社を巻き込んだ全社的な構造改革ともいえるプロジェクトになる傾向があります。私たちは、先行事例である国際基準への対応で蓄積してきた知見を積極的に提供しています。ただし、監査の独立性の観点から、システム対応などの実務支援に携わることはできません。

小宮 まさにそこが、当社の役割だと思っています。お客様と監査法人の“橋渡し役”となって、実務レベルの取り組みや情報システムの整備・改修をサポートするのが、当社の特長です。役割をうまく分担して企業の健全な成長を支援する機会を、ぜひ増やしていければと考えています。

10年以上の先駆的AI研究を通じて、 監査・アドバイザリー業務の革新を推進

小宮 会計監査でも、AIの活用が注目されています。デジタル技術

パートナーとして 成長に貢献し続ける

株式会社ビジネスブレイン太田昭和
代表取締役社長

小宮 一浩

に対する取り組みについてお聞かせいただけますか。

松村 AIの有用性には早くから着目しており、約10年にわたり研究と実践を続けてきました。

小宮 大手監査法人のなかでもかなり先行していたのではないのでしょうか。

松村 はい、そう考えています。また、EYの各国組織を見ても、一部の領域では日本が先行しているケースもあります。この取り組みが成熟期を迎え、監査ツールとしての異常値分析に加え、金融業界のクライアントに対しても、AIを活用することで融資先債権の格付けに関するアドバイスをを行う取り組みが始まっています。

小宮 当社でも、システム開発のプロセスなどに生成AIを活用して、着々と成果が生まれています。今後は、企業規模や業種・業態を問わず、さらにデジタル技術や情報システムの活用が進んでいくと思いますが、これからの企業にはどのようなことが必要になるとお考えでしょうか。

松村 一つは、データガバナンスの整備ですね。例えば、グローバル企業では、事業拠点やグループ会社ごとに別々のERPが使用されている状況が見受けられます。これがグループ全体で統一されると、財務会計業務が効率化されますし、私たちとしても監査の過程で得られた情報をクライアントにとって役に立つインサイトとして提供できると考えています。

社会の期待に応える 効果的な非財務情報開示の実現に向けて

小宮 企業にとって非財務情報の開示は、ますます重要になっています。これに対する動きをどのように見ていらっしゃいますか。

松村 非財務情報開示の成熟度は、第三者保証を受けることも含めて確実に高まっています。これは、企業が将来にわたって社会と



ともに歩み、持続的に価値を創造できるかどうかの評価されるようになってきていることを意味しており、情報開示の制度化も進んでいます。

小宮 多くの企業は、他社がどのような形で情報を開示するのか、大きな関心を持っています。こうした状況を考えると、数多くの企業情報に触れ、理解している監査法人が、その知見を活かして有効なアウトプットを示すこともできるのではないのでしょうか。

松村 そうですね。情報の検証を行うのが監査法人の役割ですが、まさにトラステッド・パートナーとして、企業の期待を上回るインサイトを提供していくことが重要だと考えています。

小宮 非財務情報に関しては、当社もサービスの拡充に努めています。ここで強みになっているのは、当社自身が東証プライム上場企業としてサステナビリティ関連財務情報の開示などのレギュレーション対応に取り組んでいることです。その経験に基づいて有効なプロセスを提案し、具体策への落とし込みを進めています。

松村 当法人としては、これまで蓄積してきた知見を活かし、情報開示におけるルールやレギュレーションの策定に貢献することが重要な役割であると認識しています。海外の動向を含む社会の要請や日本の実情を踏まえ、非財務情報開示の制度設計に寄与できればと考えています。

小宮 本日は、貴重なお話を数多くお聞かせいただき、ありがとうございました。新理事長としてのご活躍を祈念しております。

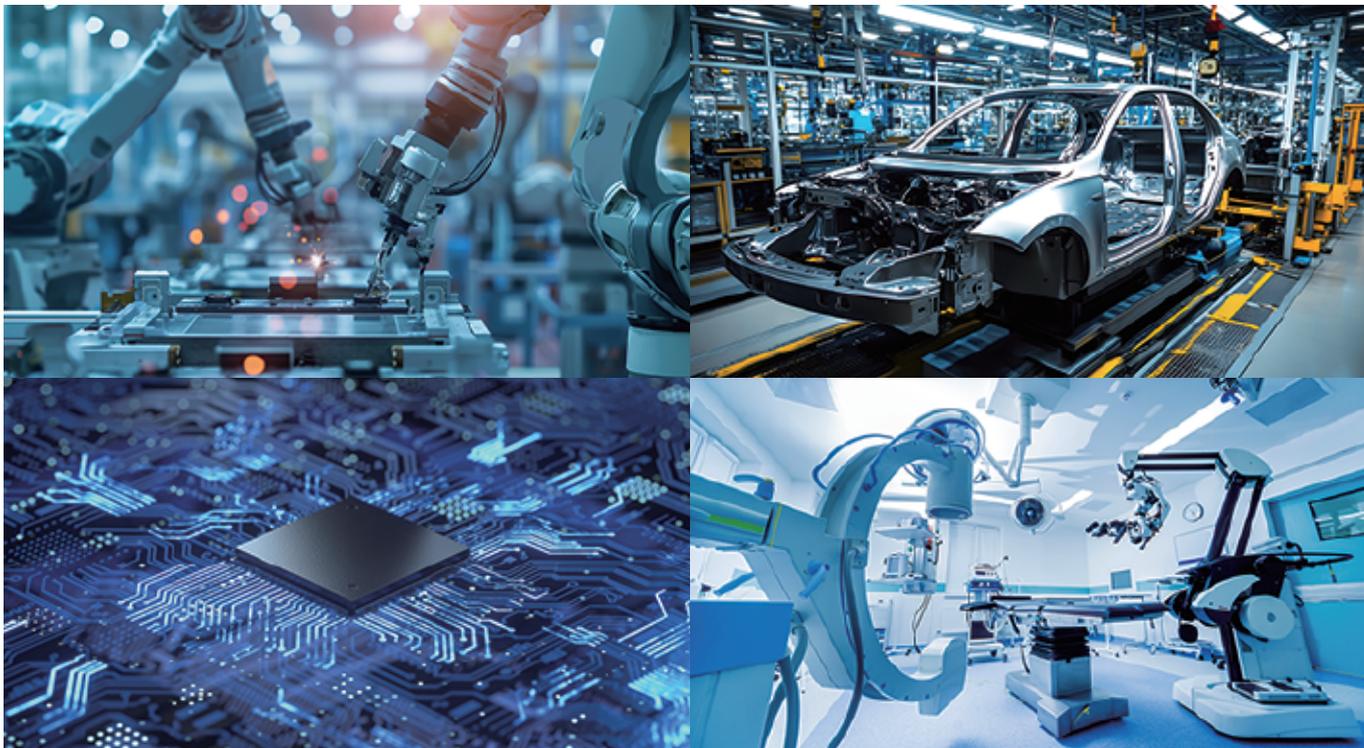
対談内容のフルバージョンをWebサイトに掲載しています
<https://www.bbs.co.jp/insight/talk/talk-06/>



事例紹介

明治電機工業株式会社 様

業務の効率化と今後の持続的な成長をめざし 販売管理システムと会計システムを刷新



導入効果

環境変化に柔軟に対応できる
新たな販売管理システムを構築

会計システムの設計・仕様と
実際の会計業務とのギャップを解消

パッケージソリューションの採用で
システムの運用負荷を軽減

お客様プロフィール

明治電機工業株式会社 様

設立 1920年7月

公式サイト <https://www.meijidenki.co.jp/>

明治電機工業様は、「日本の『ものづくり』を強くする」を経営の指針として掲げる技術商社です。各種FAコンポーネントの販売や、特注機器の開発・製造、製造ラインを構築するためのトータルサポートなど、さまざまなソリューションを提供。顧客ニーズがますます多様化するなか、環境変化に柔軟に対応できる事業運営体制の整備に取り組んでいます。BBSは、この一環としてスタートした販売管理システムと会計システムの刷新プロジェクトを支援しました。

明治電機工業様が採用した
「BBSが提供するBiz」販売・会計システム導入」とは

「Biz」は、(株)NTTデータ・ビズインテグラルが提供しているERPパッケージです。会計、販売、購買、人事などの基幹業務アプリケーションを備え、多くの企業で採用されています。BBSは、同社のパートナーとして「Biz」を導入するお客様に対して、コンサルティングからシステム開発、保守・運用まで一貫したソリューションを提供しています。

提供メニュー

会計

システム
コンサルティング

ERP

ダイジェストで読む「Biz」販売・会計システム導入」効果

パッケージソリューションの導入によって 柔軟かつ運用負荷の低いシステムを構築

明治電機工業様の特徴は商社機能とエンジニアリング機能の両機能を持つ点にある。2030年をターゲットとする長期ビジョンにおいても、幅広い商品・サービスを有する利点を活かし、顧客が製造現場で抱える課題やニーズに応える最適なトータルソリューションを提供していくことを自社のビジネスモデルとして提示している。こうしたなかで、顧客ニーズの多様化や市場環境の変化に柔軟に対応できる事業運営体制の整備を進めており、2021年に販売管理システムの刷新を決定した。同社の販売管理システムは40年以上前に

構築されたもので、業務の実態に即さない部分が生じていたほか、スクラッチ開発のシステムであったことから運用に負荷が掛かっていた。このためBiz」をベースに新たな販売管理システムを構築することとなり、同様に業務遂行上の課題があった会計システムの刷新も決めた。BBSは、この販売管理システムと会計システムの刷新プロジェクトを支援。開発パートナーとして業務プロセスの見直しやマスターデータの共通化なども提案し、2024年5月、新システムが本番稼働を開始した。

詳細はWebサイトでご覧いただけます。

<https://www.bbs.co.jp/case/case-56/>



販売管理・会計システム 抱えていた3つの課題

顧客ニーズや市場の変化に 柔軟に対応できる 体制整備が必要だった

トータルソリューションを強みとする成長戦略を推進するため、事業運営体制の強化が必要だった。

旧販売管理システムは 運用・更新の負荷が 高かった

従来システムはスクラッチ開発であったことなどから、業務に合わせた機能拡張の負荷が高かった。

旧会計システムは 手計算などの負荷が 発生していた

税計算など従来システムでは対応していない部分があり、会計業務の遂行において負荷となっていた。

「Biz」販売・会計システム導入」で、こう解決!



共通パッケージを導入し、
販売管理と会計をシームレスに連携

- 個々に運用していた販売管理システムと会計システムの開発基盤をBiz」に一本化
- 販売管理と会計情報を一元管理することで、業務運営の高度化と効率化を実現



環境の変化に対応できる
柔軟性を持たせたシステムを開発

- パッケージをベースとしつつ、業務の実態に合わせて拡張できるシステムを設計
- 販売管理システムと会計システムでマスターデータを共通化するなど、システム全体のスリム化を提案



業務プロセスを見直し
負荷軽減と効率化に貢献

- パッケージソリューションをベースとする新システムに合わせた業務プロセスの見直しを提案
- システム活用だけでなく、業務運営の効率化を支援

1

次世代システム基盤 ACT-Horizon

企業のDXを新たな次元で支えるシステム基盤

企業の事業環境は絶えず変化し、デジタル化における要件やニーズも多様化しています。業務効率化やコスト削減、さまざまに生み出されるデジタルツールへの対応など、DXにおける状況把握や管理に苦勞している企業も多いのではないのでしょうか。そこで、BBSでは、複雑化する多数のニーズに応える仕組みを備えた新たなシステム基盤「ACT-Horizon」を提供しています。

デジタル化にともなう課題に多角的なソリューションを提供



ACT-Horizonは、企業のDXを支援する次世代システム基盤です。マイクロサービス構成、マルチデバイス対応、直感的なUIといった機能を備えています。企業のDXを力強く支え、変化に強く、信頼性と柔軟性を兼ね備えたIT環境を実現します。

【ACT-Horizonのコンセプト】

ウォーターフォール型開発とアジャイル／イテレーション型開発のメリットを融合

ウォーターフォール型開発の効果
設計工程を重視

アジャイル／イテレーション型開発の効果
素早いリリースと改善

新たなシステム基盤「ACT-Horizon」

設計と実装の一貫性を担保

複雑なビジネスロジックにも対応

システム全体の可視化を促進

ACT-Horizonの3つの特長

設計情報を中心とした高速開発で、保守性が高く、柔軟な機能配置が可能なシステム構築を実現します。

ユーザー視点の設計で
コストを削減

標準でレスポンスWebデザインに対応しているため、追加設定なしでマルチデバイスに最適化。多言語対応やラベル変更についても、プログラムの修正なしで柔軟に対応可能です。

開発効率と保守性を両立

基本設計書をもとに、プログラムを自動生成するため、開発効率が向上。設計ドキュメントを残すことで、属人化やブラックボックス化を防ぎます。

安定運用を素早く実現

マテリアルデザインを採用したUIが、直感的な操作を可能に。マイクロサービス開発もサポートした構成で、クラウドサービスの機能を活用し、機能単位のスケールアウトが可能です。

さらに詳しいサービス内容は、Webサイトをご覧ください。
<https://www.bbs.co.jp/product/acthorizon/>



人事給与総合サービス Bulas

日本の「給与業務」を変革するアウトソーシングサービス

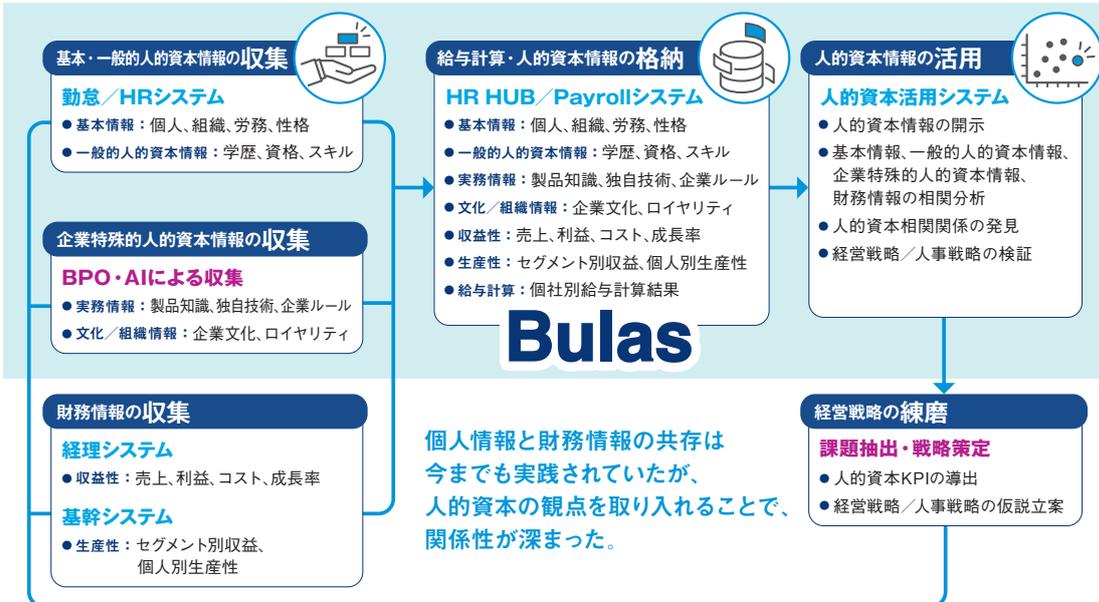
働き方の多様化や次々に変わる公的制度・特別措置への対応、さまざまなデジタルツールの導入など、人事・給与業務を担う部門が置かれている環境は、日々複雑さを増しています。BBSでは、こうした複雑化する課題に対し、デジタルツールとエージェントサービスを融合したトータルアウトソーシングサービス「Bulas」を提供。お客様の業務負荷の軽減に貢献しています。

データ分析の力で人財戦略をサポート

人財戦略の活性化には、蓄積したデータの有効活用が不可欠です。Bulasは、人的資本に関わる情報の収集、格納、開示、活用に対応し、企業の人財戦略における意思決定を支援します。

- 人財データに基づいた採用、育成、配置、報酬などの意思決定
- 人財流出、離職、労務トラブルなどのリスク分析による予防策の検討
- 人財マネジメント施策の効果測定による改善策の検討

BulasをHUBに、人的資本情報の収集から開示・活用までトータルにサポート!



業種業態別のニーズに応えるアウトソーシングモデルを提供

Bulas コンパクト	Bulas マルチサイト	BulasExtra
対象 グループ会社、シェアード会社(間接業務の運営会社) 課題 給与業務の属人化、後任者の育成、短期間での課題解決 対応 3か月間で給与業務の切り替えが可能。人事・給与業務以外にも幅広い範囲でBPO化に対応し、ドキュメントを整備することで運用を見える化。	対象 多店舗・フランチャイズ型店舗 課題 各拠点の人員管理、複雑な勤務形態による品質への影響 対応 マルチサイト(多店舗)ならではの名寄せ、時給設定や勤務形態に柔軟に対応。本部、フランチャイズ双方での人員管理の適正化とDX化を実現。	対象 大規模企業(大手企業、航空、海運、不動産、建設など) 課題 特殊勤務パターン、一部手作業が残り非効率で属人的な業界独自の手当額算出や給与計算 対応 給与計算処理に必要な業界独自のデータを連携。計算処理のオール自動化をクラウドサービスでサポート。

※モデルの名称は仮称です。

さらに詳しいサービス内容は、Webサイトをご覧ください。
<https://www.bbs.co.jp/product/bulas/>



第8回 | BBS 絵画コンクール 受賞作品発表!

テーマ

あなたの幸せな時間

子どもたちの想像力や表現力を育むことを目的に開催しているBBS絵画コンクール。今回は、BBS社員と小宮社長に加え、「アウトサイダー・アート」の第一人者であり、アーツカウンシルしずおかのチーフプログラム・ディレクターとしても活躍されている榎野展正氏も選考に参加。合計12点が受賞作品に決定しました。そのうち優秀賞までの6点を紹介します。今回も全国からたくさんのご応募ありがとうございました。



第69号表紙

とみだ まほ
富田 茉歩さん (愛知県)
『たのしいプールあそび』



お友達とプールでバシャバシャ遊んだ時間が楽しかったです。ママ達もいて、楽しかったです。



第70号表紙

みずの さら
水野 紗良さん (奈良県)
『いとことねころんで見たかしわざきの大花火』



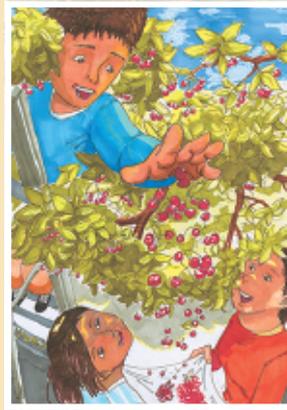
なつ休みににいがたのいとこ3人とおねえちゃんねころんで見た大花火は火のこがふっておてくるようでとてもきれいでは力がありました。いとこといっしょに大花火を見られてとてもしあわせにおもいました。



たかとり まもる
鷹取 遵さん (兵庫県)
『いただきます!』



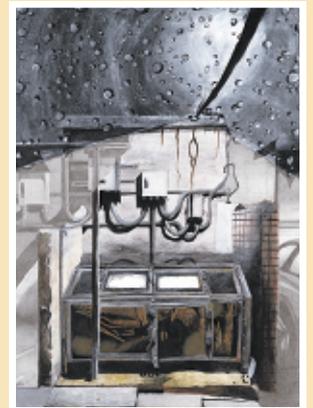
たけばやし かれん
竹林 楓恋さん (東京都)
『日月四喜』



やまもり さやか
山森 佐彌霞さん (岐阜県)
『幸福の実』



いちのせ みはる
一瀬 美春さん (大阪府)
『雪か雨が雨が雪』



榎野展正氏による総評・受賞作品へのコメントや、受賞作品の詳細は、2025年8月にBBSのWebサイトで公開予定です。

<https://www.bbs.co.jp/contest/library/>

